

協議事項

協議 1 地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について

1. 主旨

国の「地域公共交通確保維持改善事業」による支援を受けた事業については、公共交通会議において、計画に位置づけられた補助対象事業の実施状況の確認、評価を行い、評価等の結果については、中部運輸局より2次評価を受け、中部運輸局が事務局を務める「第三者評価委員会」で評価を受けることとなっています。

山口市では、ハーバス大桑線及び伊自良線が「地域内フィーダー系統確保維持改善事業」に該当していることから、実施した取組等について、平成29年度事業評価（案）を資料1のとおり作成しましたので、適切に評価できているかを書面協議にて、お伺いします。

協議 2 岐阜乗合自動車(株)作成「土日祝日限定ワンデーフリー乗車券」対象路線に本市自主運行バス全路線を含めることについて

1. 主旨

岐阜乗合自動車(株)作成「土日祝日限定ワンデーフリー乗車券」は、本市公共交通総合連携計画に基づく利用促進事業、「割引乗車券の発行」の趣旨に合致するものであり、適用期間は限定されるものの、営業路線と自主運行バスの区別なく市内全路線及び市外の岐阜バス全路線に乗車できる券を発行することにより、バス利用者の割高感や抵抗感を軽減し、一層の利用促進につながるものと考えられます。

今年度についても、岐阜乗合自動車(株)が資料2のとおり実施する予定であるため、岐阜乗合自動車(株)作成「土日祝日限定ワンデーフリー乗車券」対象路線に本市自主運行バス全路線を含めてもよろしいか書面協議にてお伺いします。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成30年 1月 日

協議会名: 山県市公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
岐阜乗合自動車(株)	ハーバス大桑線 (イオンビッグ・平和堂経由)	平成28年度に目標値を概ね達成していたことから、引き続き、利用促進策として、公共交通ガイドブックを発行、バスヘルパー活動を継続、高齢者・障がい者・小学生の運賃免除を実施した。 また新たな利用促進策として、土日祝日限定1日乗車券の市内商業施設での販売、運転免許証自主返納者の運賃半額制度を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 利用者1人あたり運行経費は1,421円/人であり、目標値1,480円/人を達成している。 1便あたり乗車人数は3.6人/便であり、目標値3.1人/便を達成している。 定期的な見直しにより利便性が向上したことで、地域住民にバス利用の意識が定着しつつあると考えられる。	平成29年度中に策定予定の網形成計画において、交通結節点を明確化し、バスターミナルを拠点とした路線再編を検討している。 目標値が達成されていることから、網形成計画では目標値の見直しを行う。
岐阜乗合自動車(株)	ハーバス伊自良線 (平和堂・イオンビッグ・山県グリーンポート経由)	平成28年度に目標値を達成していたことから、引き続き、利用促進策として、公共交通ガイドブックを発行、バスヘルパー活動を継続、高齢者・障がい者・小学生の運賃免除を実施した。 また新たな利用促進策として、土日祝日限定1日乗車券の市内商業施設での販売、運転免許証自主返納者の運賃半額制度を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 利用者1人あたり運行経費は1,336円/人であり、目標値1,630円/人を達成している。 1便あたり乗車人数は3.8人/便であり、目標値3.1人/便を達成している。 定期的な見直しにより利便性が向上したことで、地域住民にバス利用の意識が定着しつつあると考えられる。	今後は人口減少の影響などにより、利用者減少も想定されることから、利用促進策は引き続き実施していく。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成30年 1月 日

協議会名:	山県市公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>山県市は、岐阜市の北側に隣接し、JR岐阜駅及び名鉄岐阜駅から約9～34キロメートルと南北に広範に広がり、北部の山地・過疎地と南部の平たん地・都市部のように地区によって地理的条件が大きく異なっている。</p> <p>市内には鉄道がなく、自動車を利用できない市民にとっては、バスが日常生活になくてはならない交通手段となっている。しかし、利用者の減少による営業路線の撤退や自主運行バスの路線維持費の増加が懸念されている。また、バス停から離れた集落が各地に点在し、このような公共交通不便地区の解消が課題となっている。</p> <p>そのため、『みんなでつくり、守り、育てる生活交通』を基本理念として、通勤・通学、買い物や通院などの利用者ニーズを反映した、利用しやすい生活交通を確保することを目的として、生活交通ネットワークの構築を進めている。</p>

中部様式1

平成29年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（案）（全体）

山県市地域公共交通会議

平成20年 5月22日設置

フィーダー系統 平成25年 8月 8日 確保維持計画策定

地域の特性と背景

- 本市は、北部の山地・過疎地と南部の川沿いの平たん地・都市部で構成され、地区によって地理的条件が大きく異なる
- 市内に鉄道がなく、自動車の利用できない市民にとってバスがほぼ唯一の公共交通であり、日常生活に無くてはならない交通手段
- 利用者減少による営業路線の撤退や自主運行バスの路線維持費の増加が懸念
- 利用者ニーズを反映した生活交通の整備を目指し、「**山縣市公共交通総合連携計画**」(H25.8)を策定

計画の基本的な方針・期間等

山縣市公共交通総合連携計画

■ 基本理念

「みんなでつくり、守り、育てる生活交通」

■ 基本方針

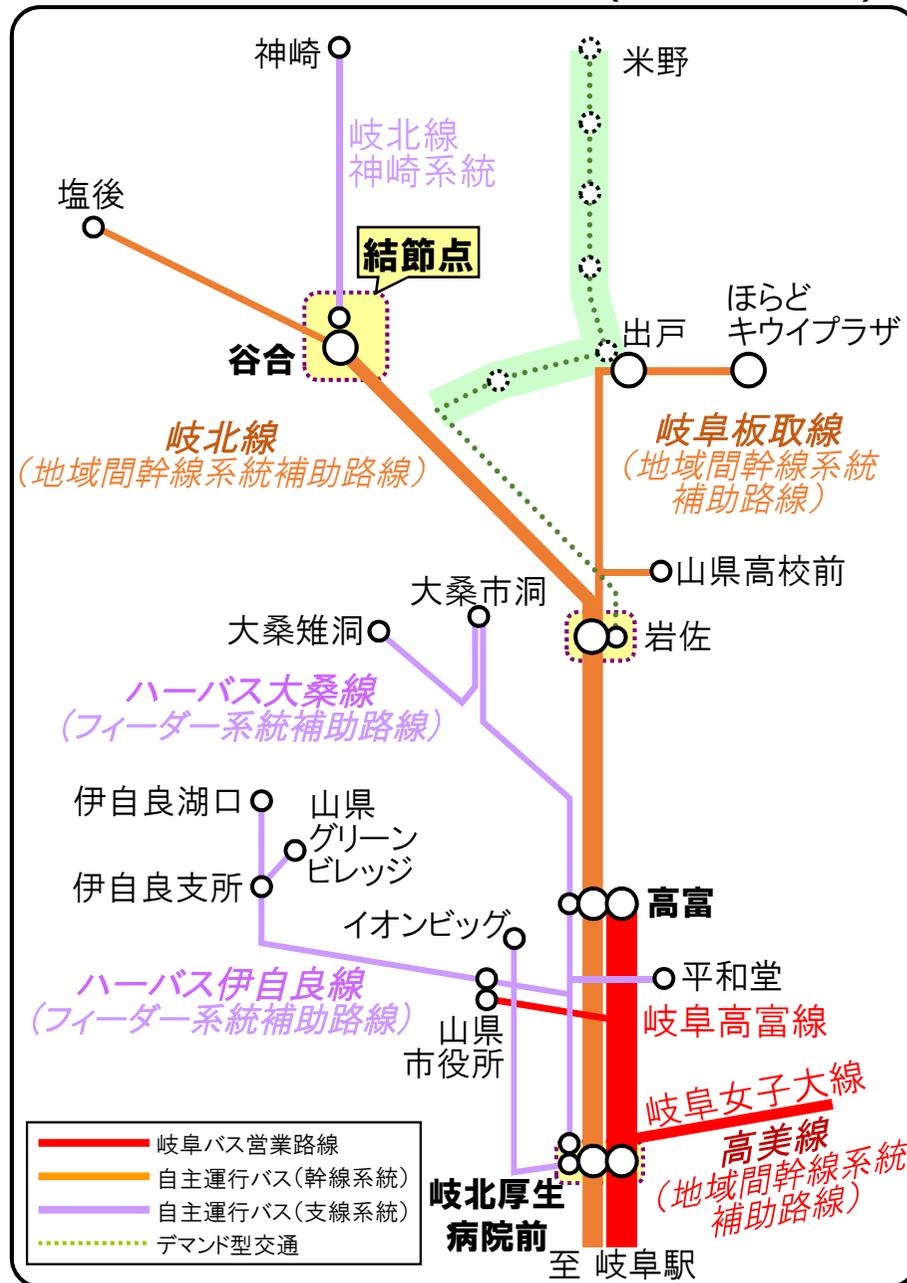
- ①地域のニーズに対応した利用しやすい生活交通の整備
- ②地域で支える仕組みづくり
- ③地理的条件や利用状況に応じた効率的な運行

■ 計画期間

平成25年度～平成30年度

※今年度、地域公共交通網形成計画を策定予定

公共交通ネットワーク概要図(H29.12時点)



評価の基本的な考え方

- 公共交通総合連携計画では、「年間乗車人数」「利用者1人あたりの運行経費」「1便あたりの乗車人数」を目標値として設定
- 地域公共交通確保維持事業では、連携計画の目標値をもとに、「利用者1人あたりの運行経費」「1便あたり乗車人数」を目標値として設定（下表赤枠部分）

公共交通総合連携計画 評価指標と目標値

評価指標	現在値（平成24年度）			中間目標値（平成27年度）			目標値（平成30年度）		
	年間乗車人数 (人)	利用者1人あたり 運行経費 (円/人)	1便あたり 乗車人数 (人/便)	年間乗車 人数 (人)	利用者1人あたり 運行経費 (円/人)	1便あたり 乗車人数 (人/便)	年間乗車 人数 (人)	利用者1人あたり 運行経費 (円/人)	1便あたり 乗車人数 (人/便)
岐北線	117,477	709	6.8	121,000	690	7.0	122,800	680	7.1
板取線	49,165	627	7.7	51,000	610	8.0	51,900	600	8.1
ハーバス大桑線	9,647	1,511	3.0	9,900	1,490	3.0	10,000	1,480	3.1
ハーバス伊自良線	7,052	1,740	2.9	12,000	1,670	3.0	12,300	1,630	3.1
ハーバス市内循環線	5,630	2,603	4.8	—	—	—	—	—	—
ハーバス乾線	739	3,996	0.8	900	3,330	1.0	1,000	3,000	1.1
合計・平均	189,710	836	6.0	194,800	780	6.1	198,000	770	6.2

路線再編事業

岐北線

- 山県高校行を朝1便→2便に増便 (H28.10)

ハーバス大桑線・伊自良線

- 公共交通不便地区解消のため、停留所の移設、ルート変更を実施 (H25.10)
- 買い物利便性向上のため、市内商業施設への乗り入れを実施 (H26.4 平和堂, H27.10イオンビッグ)



ハーバス乾線

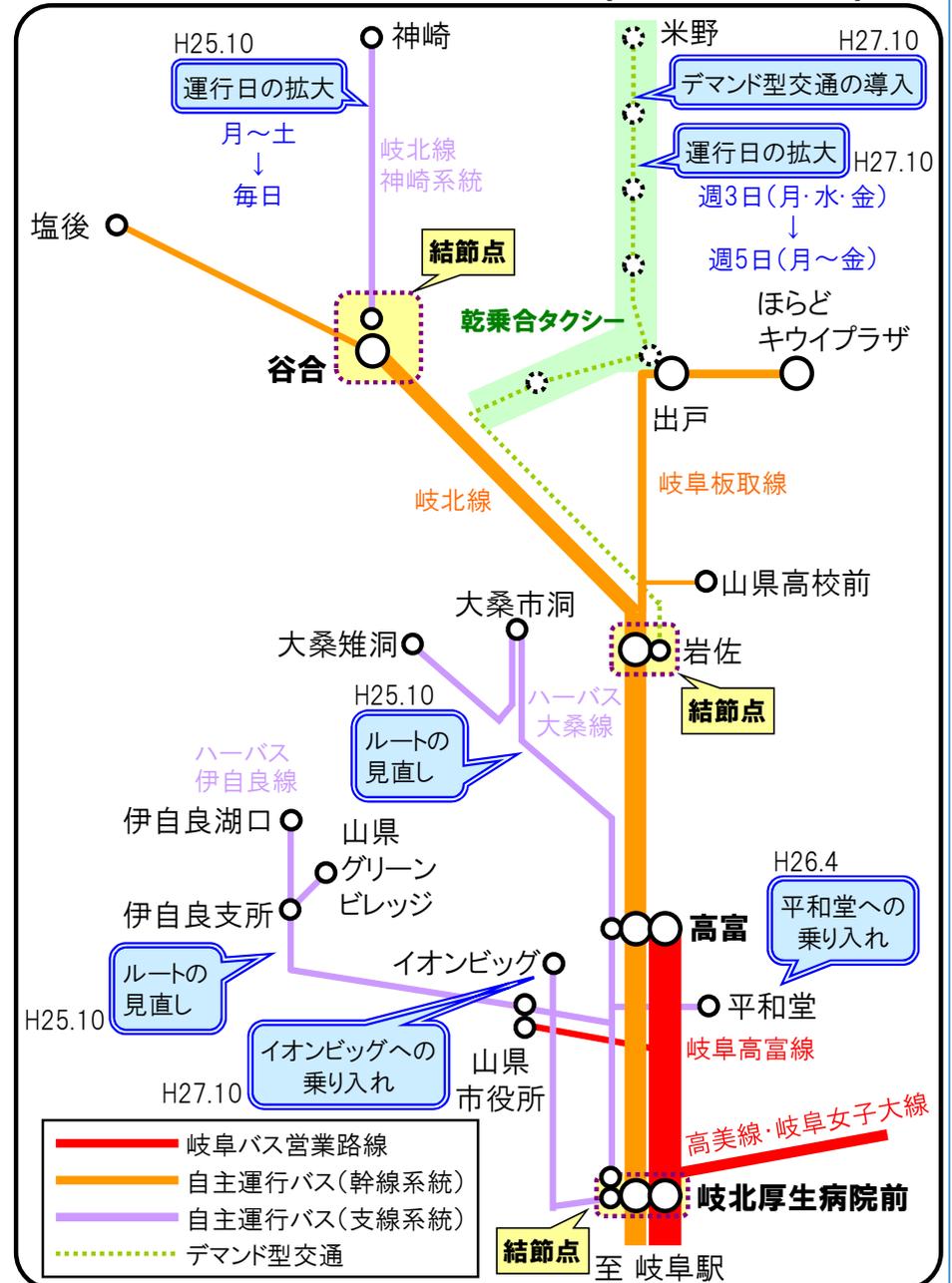
- 予約制の乗合タクシーを運行開始 (H27.10)
- 狭隘道路に対応するためタクシー車両を使用、停留所を増設
- 隔日運行を平日毎日運行に拡大



岐北線神崎系統

- 住民の外出機会創出のため、日曜・祝日の運行を開始 (H25.10)

連携計画策定後の再編概要(H29.12時点)



利用促進事業

公共交通ガイドブックによる情報提供

[実施主体：市]

- 市内を運行する路線のルートや時刻表の変更にあわせてガイドブックを更新
- **平成29年度においては岐阜バスのダイヤ改正等に伴い、4月に更新**

インターネットによる情報提供

[実施主体：交通事業者]

- バスの遅延などの運行状況を携帯電話・スマートフォン・パソコン等で確認できるサービスを提供

バスヘルパー活動の実施 [実施主体:市民・市]

- 岐北線、ハーバス大桑線・伊自良線において、バス乗降時のサポート等を実施
- 平成25年度から毎週月曜日に実施
- 登録者数 11人 (H29.12時点)



運転免許証自主返納者への運賃半額制度の実施

[実施主体:市・交通事業者]

- **岐阜バスが実施する「運転免許証自主返納者のバス運賃半額制度（現金払いのみ）」を自主運行路線でも適用（H28.10より）**
- 対象路線
岐北線（神崎系統含む）、岐阜板取線、ハーバス大桑線、ハーバス伊自良線

土日祝限定1日乗車券 販売窓口の増加

[実施主体:市・交通事業者]

- 岐阜バスが発行している「土日祝日限定ワンデーフリー乗車券」を市内商業施設（平和堂）にて販売（H28.3～5より）
- 販売実績
※秋（H29.9～11）については暫定値（H29.12.13現在）

	全体	商業施設	営業所	市内合計
春(H28.3～5)	21,306枚	613枚	1,641枚	2,254枚
秋(H28.9～11)	26,098枚	1,860枚	1,493枚	3,353枚
春(H29.3～5)	22,593枚	1,867枚	1,063枚	2,930枚
秋(H29.9～11)	24,000枚	2,396枚	1,060枚	3,456枚

増
増

山県市地域公共交通網形成計画の作成（平成29年度策定予定）

計画の基本的な方針・期間等

■ 基本方針

「どの世代においても住みよい、便利で快適なまちを実現する地域公共交通体系の構築」

- 目標1 多様なニーズ・需要に応じたサービスの提供
- 目標2 まちづくりと連携した、新バスターミナルを拠点とするネットワークの構築
- 目標3 誰もが分かりやすく、安心して利用できる公共交通の充実
- 目標4 多様な主体の連携により、地域全体で公共交通を支える体制の推進

■ 計画期間 平成30年度～平成35年度

主な計画推進事業

■ 路線再編事業

- ・新バスターミナルを拠点とする路線への再編
- ・新規路線の運行
 - ①岐阜大学病院路線の運行
 - ②市街地循環路線の運行
 - ③美山地域の運行形態の変更
 - ④JR岐阜駅までの快速便の導入

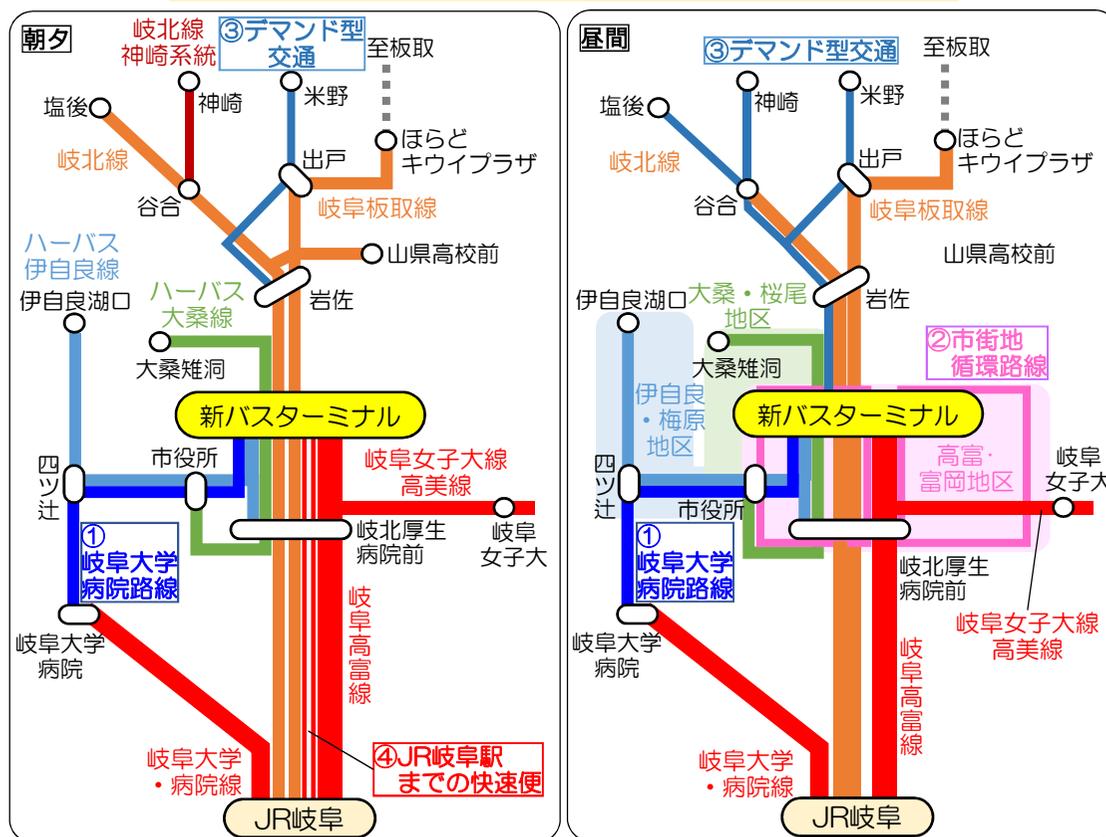
■ バスターミナル整備事業

- ・駐車場・駐輪場の整備
- ・待合いスペースの整備

■ 利便性向上・利用促進事業

- ・モビリティマネジメントの実施
- ・地域バス調整会議の開催

将来の公共交通ネットワークイメージ図



■ 目標値の達成状況

※平成28年度より乾乗合タクシーに変更

路線名・補助路線		岐北線 (地域間幹線)	岐阜板取線 (地域間幹線)	ハース大桑線 (地域内フィーダー)	ハース伊自良線 (地域内フィーダー)	ハース乾線※	計	
年間乗車 人数 (人)	実績 値	平成27年度	115,144	45,286	10,915	13,751	679	185,775
		平成28年度	114,147	44,264	11,009	14,221	741	184,381
	平成29年度	113,335	44,601	11,545	14,833	694	185,008	
	目標値	122,800	51,900	10,000	12,300	1,000	198,000	
	平成29年度 達成状況	未達成	未達成	達成	達成	未達成	未達成	
利用者1人 あたり運 行経費 (円/人)	実績 値	平成27年度	708	718	1,343	1,369	4,545	811
		平成28年度	726	745	1,494	1,377	7,230	853
	平成29年度	713	743	1,421	1,336	6,979	838	
	目標値	680	600	1,480	1,630	3,000	770	
	平成29年度 達成状況	未達成	未達成	達成	達成	未達成	未達成	
1便あたり 乗車人数 (人/便)	実績 値	平成27年度	6.7	7.2	3.4	3.5	0.8	5.9
		平成28年度	6.5	7.0	3.4	3.7	1.4	6.0
	平成29年度	6.6	7.0	3.6	3.8	1.6	6.0	
	目標値	7.1	8.1	3.1	3.1	1.1	6.2	
	平成29年度 達成状況	未達成	未達成	達成	達成	達成	未達成	

■ 目標達成状況に関する考察

ハース大桑線・伊自良線（地域内フィーダー系統補助路線）

- 平成25年度以降の定期的な見直しにより利便性が向上したことで、地域住民にバス利用の意識が定着
⇒更なる利用者増を目指して、自治会等と連携した利用促進を推進

岐北線・岐阜板取線（地域間幹線系統補助路線）

- 沿線人口の減少の影響から、当初の予測よりも利用者数は増加せず、現状維持または微減傾向が続いている。
⇒人口の減少率を加味した目標値へ変更

乾乗合タクシー

- 運行エリアが人口の少ない地区であり、また幹線バスとの結節点が「岩佐」のため、利用者が限定され、効率的な運行が困難
⇒より効率的かつ利便性の高い公共交通を目指して、運行形態を再度検討

- 自己評価 平成30年1月書面協議を行い、公共交通会議委員より承認。
(平成29年11月28日の公共交通会議において、現状・目標等についてあらかじめ報告)

課題

運行形態に関する課題

- バス利用者からは、定時定路線の運行を望む声大きい
- 一方、現在バスを利用していない（利用できない）住民からは、デマンド型交通を望む声がある
- 同一地区内で対立する意見がでていますが、調整しきれていない

目標値に関する課題

- 連携計画策定時から、人口の減少、高齢化の進行など社会情勢が変化している
- また、連携計画で定めた年間乗車人数の目標値の達成状況が路線によって様々（大きく達成している、達成の見込みがないなど）

対応方針

- 地域公共交通網形成計画を平成29年度中に策定予定
- 市の考える方向性を提示しつつ、詳細なサービスについては、地域バス調整会議にて、住民とともに検討をしていく

- 地域公共交通網形成計画を平成29年度中に策定予定
- 利用状況や社会情勢等を踏まえた目標値を設定

中部様式2

平成29年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（案）（経緯）

山県市地域公共交通会議

平成20年 5月22日設置

フィーダー系統 平成25年 8月 8日 確保維持計画策定

直近の第三者評価委員会 における事業評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
<ul style="list-style-type: none"> 乾乗合タクシーの利用実態の把握、住民のニーズにあった運行形態の検討が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 乾乗合タクシー利用者、乾地区住民に対しアンケート調査を実施（H28.3） 定時定路線型からデマンド型に変更したことに対する意見等を把握 	<ul style="list-style-type: none"> 住民アンケート調査の結果、乾乗合タクシーが導入されたことを「よかったと思う」が7割 一方、運行本数や停留所の位置の変更、増設等の要望 調査結果を踏まえて、サービス水準の見直しや運行形態の変更等を自治会とともに検討
<ul style="list-style-type: none"> 公共交通の利便性は、転出転入の要因となる 目標値について、人口減の割合を踏まえた設定が必要 	—	<ul style="list-style-type: none"> 網形成計画において、バス利用者数の増減割合が市人口の減少割合以下となるよう目標値を設定
<ul style="list-style-type: none"> 市内の交通結節点の整理、高富から岐阜までの速達性の向上が必要 	<ul style="list-style-type: none"> バスターミナルを拠点として、公共交通ネットワークの再編を検討 速達性向上を図るため、快速便の導入に向けて交通事業者と協議 	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度中に策定予定の網形成計画において、バスターミナルの位置づけを明確化 快速便導入に向けて、交通事業者と協議

バス事業者と連携した利用促進策の展開

- 利用促進策の一環として、岐阜バスが実施している「土日祝日限定1日乗車券」や「運転免許証自主返納者への運賃助成」の対象を市の自主運行バスにも拡大。
- 「土日祝日限定1日乗車券」を、広報により周知を実施。（春・秋2回掲載）
- 「土日祝日限定1日乗車券」の平成29年度市内販売実績は、前年度と比較すると、春は約600枚、秋は約100枚増加。

自治会との意見交換会の開催

- 新たに運行を検討している、デマンド型交通や岐阜大学病院路線、バスターミナルを中心とし市中心部の交通空白地をカバーする市街地循環路線に対するニーズを把握するため、自治会長等との意見交換会を実施。
- 自治会長には、事前に自治会の集まり等において住民の意見を聞き、自治会としての意見を集約していただいている。

交通事業者等との協議の実施

- 地域公共交通網形成計画の検討段階で、バス事業者、タクシー事業者、自家用有償運送実施主体（社会福祉協議会）といった様々な交通事業者等と協議を実施。
- 市から要望を伝えるだけでなく、事業者からどのようなサービスを展開できるのか、提案をいただいている。

岐阜バスから500円で乗り放題「土日祝日限定ワンデーフリー乗車券」が発売中

市内全バス路線と岐阜バス全線などに一日乗り放題の乗車券が販売中です。

▼利用できる日
11月26日(日)までの土・日・祝日

▼発売額 500円(小児、障がい者の別はありません)

▼適用方法
有効日1日1人に限り何回でも乗車可能

▼対象路線
市自主運行バス(ハイバス、岐阜北線、岐阜板取線、岐阜バス全線(高津バス、イオンモール各務原線など)一部路線は除く、深夜バスについては、片道運賃が必要)、関シライバスほか

▼発売場所
岐阜バス高富営業所ほか各営業所、平和堂高富店、岐阜バスターミナル、J.R岐阜駅案内所、岐阜バス観光旅行センター、岐阜大学生協、マisa21

▼問い合わせ先
バスの運行に関すること
岐阜バス高富営業所 TEL2250100
公共交通に関すること
企画財政課 TEL2268255



平成29年広報10月号

13 広報やまがた 2017.10

意見交換会の開催状況

自治会	平成28年 9月15日, 10月20日 12月15日 平成29年 5月18日, 6月 2日 7月 2日, 11月17日
市民団体	平成29年3月7日

土日祝日限定 1 日乗車券の設定について（案）

2017 年 12 月 6 日
岐阜乗合自動車(株)

○趣旨

利用者が低迷する休日の利用促進策として、土日祝日限定 1 日乗車券を設定し利用者増を図る。

○適用方法

有効日 1 日、1 名に限り、何回でも乗車可能とする。

○対象路線

岐阜バス全路線・山県市ハーバス・岐北線・岐阜板取線・関シティバス（デマンドバスを除く）・関上之保線・関板取線・牧谷線・各務原市ふれあいバス、みずほバス

※明治村線、リトルワールド・モンキーパーク線、イオンモール各務原線、快速イオンモール各務原線、高速乗合バス（新宿線、岐阜高山線、名古屋白川郷線、関・長島線、高速八幡線、高速名古屋線、高速特急名古屋線）市町村自主運行バス（岐阜市コミュニティバス、美濃加茂あい愛バス）は対象外

※対象路線は変更となる場合があります

○通用期間

春季：毎年 3 月最初の土日祝日～5 月最後の土日祝日

秋季：毎年 9 月最初の土日祝日～11 月最後の土日祝日

○発売額

500 円（小人、障がい者運賃も同額）

○発売箇所

岐阜バスターミナル、JR岐阜駅案内所、各営業所、各旅行センター、岐阜大学生協、平和堂高富店、平和堂東海日野店、マーサ 21、バロー芥見店、バローモレラ岐阜店、長良川温泉各旅館とホテル、岐阜駅前各ホテル

※発売箇所は変更となる場合があります

○目標

年間 46,000 枚（2017 年実績 約 45,000 枚）